ユナ・ボマーの犯行目的と技術進歩の落とし穴

皆様、ユナ・ボマーと言う人物、ご存知でしょうか？

ユナ・ボマーとは、アメリカの数学者であり、爆弾魔として１９７８年から１９９５年の１７年間に渡り、全米各地の大学、航空や金融機関に爆発物を送り付け、３０人以上の死傷者を生み出した犯罪者です。

彼の犯行動機は未だに不明ですが、犯行を中止する代わりに、犯行声明文（犯行を起こした理由）をニューヨークタイムズとワシントンポストに掲載する事を求め、実際に彼の声明文は掲載されまして

その犯行声明文にはその犯行動機を匂わすような文面が記載されていました。

人間の多くは技術革新により、取り組める活動作業が

・簡単な物か

・難しい物

しか無くなってしまった。

だから、人間の多くは落胆してしまっているのだ。

と言う主題を元に、ユナ・ボマーの犯行声明分は綴られており、「人間が命を燃やして取り組める物事を消す、機関を破壊し、再びゼロからやり直す」と言う事が彼の犯行動機の一つだったのかもしれません。

どうでしょう？

今から約、２１年前の犯行声明分ですが、彼の言ったような虚無感と落胆と憂鬱に溢れる時代に、より成りつつあるのではないでしょうか？

簡単な仕事はロボットに奪われ、ロボットでは対応出来ない仕事は、世界中に居る優秀な人材のみが担う。

と言う事で本題に移ります。

技術革新、特にGoogleなどの検索エンジンが栄える事、皆様の手元にある事で、皆様の思考力が下がってしまっているのではないでしょうか？

何か問題があれば、考える前にGoogle。そして、見つけた物事を鵜呑みにし、理解せずに記憶に留める。

この現象が何故、問題なのかと言いますと、思考力の無い人の仕事は、自動化機械化によってこれから、さらに少なくなってくるからです。

思考力を付ける方法は、幾つかございまして：

・思考のフレームワークを身に付ける

・他人の意見や考え、アイデアをすぐに鵜呑みにはせず、自分の物にするためにさらに深く理解しようと勉強したり、反対の考えや意見、アイデアの事も勉強する

と言うようなガイドラインを元に、思考する時間を散歩している時でも、電車の中でも、ベッドに入り眠る前までの時間を使うなどして、思考する時間を設けると思考力が徐々に付いてくるはずです。